

第49回島マス記念塾ディベート 日本型バレンタインデーは是か非か

肯定側チーム

ZEBARE VS

撲滅VD大作戦

否定側チーム

2月14日(木)

PM7:30開始

沖縄市社会福祉センター2階

No Debate
No Life

時下、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。
さて、この度、塾生の自主活動の一環として、裏面の資料のとおり「2012年度ディベート研究発表」を行うことになりました。
つきましては、何かとご多忙の折とは存じますが、当第20期塾生の研究の成果をご覧いただきますよう、お知らせいたします。多くの方のご参加をお待ちしています。

ウラ面もご覧ください→

2012年度島マス記念塾ディベート研究発表

ディベートとは、決められたあるひとつのテーマ（論題）をめぐって、2つに編成されたチームの間で、一定のルールに従って繰り広げられる討論のことである。

第49回テーマ 「日本型バレンタインデー」は是か非か

【解説】

日本のバレンタインデーは諸外国とは違う形で、日本独特の行事として発展し定着してきた。ヨーロッパなどでは女性だけではなく、男性からも花やケーキ、カードなど様々な贈り物を恋人や親しい友人にプレゼントする日であるが、日本では下記の定義のように、贈り物の多くがチョコレートである点や、女性から男性へ贈ることが多い点など、独自の特徴が多く認められる。

ある説によれば日本のチョコレートの年間消費量の2割程度がこの時期と言われるほど国民的な行事となっており、バレンタイン商戦などとして関連企業が工夫を凝らして取り組むため、大きな経済効果があるとも言われている。また、愛情表現だけではなく、周囲の人たちへの日頃の感謝を表し、コミュニケーションの円滑化を図る機会として肯定的に捉える意見もある。

一方、義理チョコなどとして、義務的な行事にむりやり参加させられることへ不快感を感じる人や、東日本大震災以降、バレンタインにかかる費用を寄付に回すため、社内行事としてのバレンタインデーを中止する企業も出てきている。

このような現状から、バレンタインデーは日本では肯定する側も否定する側も、どちらも意識せざるを得ない一大行事であることは間違いのないようである。（事務局・観）

＝ディベートを行うに際して、その論点・争点がそれることなくうまくみ合わせることを目的に、各チーム協議のうえ以下のとおり定義・確約事項を決定した。＝

【日本型バレンタインデーの定義】

- ①贈り物の多くがチョコレートである。
- ②女性から男性へ愛を告白する日として認識されている。
- ③「義理チョコ」「友チョコ」など、職場や学校等で上司や友人に贈る習慣がある。
- ④お返しとして、男性から女性へ贈り物をする「ホワイトデー」という習慣がある。

【確約事項】

- ①起源など宗教的な内容に関しては、深入りしない。
- ②外国のバレンタインデーとの比較はしない。

日 時：平成25年2月14日（木） 午後7時半～午後9時半

場 所：沖縄市社会福祉センター2階会議室

問合せ：沖縄市社会福祉協議会 TEL 937-3385

申し込みは必要ありませんので、どうぞ自由にご参加ください。